

■ 2009年（7月～12月）活動報告 ■

募金贈呈式

12月22日（火） 事務所にて

- ◆佐賀市立東与賀中学校では毎年ユニセフ募金活動に取り組んでいます。今年も生徒会奉仕部の皆さんが11月いっぱい各クラスに募金箱を設置して生徒の皆さんに協力を呼びかけました。
- ◆本日は、奉仕部の2人の生徒さんと担当の先生が事務所を訪問し、全校の皆様からご協力いただいた募金を贈呈されました。11月、12月はユニセフ ハンド・イン・ハンド月間ですので「1歳の誕生日を迎えられないような小さな子どもの命を守るために役立ててください。」と手渡されました。

第31回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

テーマ 『一度も誕生日を迎えられない小さいのち、年間約600万人』

12月13日（日）	佐賀市	ゆめタウン佐賀 イオンスーパーセンター佐賀店
	小城市	パニーズ三日月店
12月19日（土）	武雄市	ゆめタウン武雄
12月20日（日）	佐賀市	佐賀玉屋デパート前、ジャスコ佐賀大和店、 ホームワイド佐賀大和店、 ベスト電器佐賀大和店
	上峰町	上峰サティ
	小城市	パニーズ三日月店



ゆめタウン佐賀



パニーズ三日月店

- ◆今年のハンドウィークは、冷たい北風だったり、小雨だったり、あるいはまた雪がちらついたりといくのお天気でしたが、小学生・中学生と引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウトそして高齢者団体の皆さま方等、総勢221名にものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。



イオンスーパーセンター佐賀店

◆どの日も寒い日でしたが、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す！」「2円で一年分のビタミンAを一人の子どもにおくることができま〜す！」と大きな声で協力を呼びかけるボランティアの皆様の熱い思いは、暮れのお買い物をされるお客様の心に届きたくさんのご協力をいただきました。



ゆめタウン武雄



ジャスコ佐賀大和店



佐賀玉屋デパート前



ホームワイド佐賀大和店

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま
募金に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くのみなさま
快く会場をご提供くださった企業のみなさま
本当にありがとうございました



ベスト電器佐賀大和店



上峰サティ



パニーズ三日月店

◆12月13日・19日・20日と3日間にわたって行われました街頭募金活動には総勢221人の方がボランティアとして参加していただき、多くの皆さま方からの温かいご支援をいただきました。この街頭募金活動を含め、11月と12月の2ヶ月間にわたって行われました『第31回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金』での募金総額は1,414,555円にもなりました。たくさんの皆様のご支援ご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

ユニセフ出前授業 ～平和を築く～

12月9日(水) 佐賀市立思斉小学校6年生

- ◆思斉小学校では12月4日から10日までの一週間を「思斉小学校人権週間」として位置づけ、「人権・平和」について勉強しています。本日は、「人権教室」が開かれました。
11月に6年生が長崎へ修学旅行に行き、そこで見聞きしてきた原爆被爆時の様子や平和の大切さを校内テレビ放送で全校の皆さんに報告しました。
- ◆その後、6年生は「平和を築く」として、現在なお紛争下に生きる世界の子どもたちのことについて学びあい、「平和とは何か？そのために自分が今から始めることは何か？」などについて勉強しました。
- ◆授業の後、校内で取り組んだユニセフ募金の贈呈が行われました。



学習を終えて

- ◆今日の勉強で初めて知ったことは、今でもたくさんの国で戦争が起きているということです。ぼくたちは長崎に行って平和のことについて学び、戦争は二度としてはいけないと思いました。思斉小学校では「ぽかぽか心」を広げて、学校や地域などでけんかが起きないようにしようとしています。「ぽかぽか心」を広げるのは「思いやる心」を育てることだと思います。
- ◆「ありがとう」という言葉も大切だと思いました。「ありがとう」で心がぽかぽかになります。

切手を切って、手を洗おう！

11月29日(日) iスクエア(佐賀市)

- ◆「さが元気もんフェスタ'09」が開催され23の団体が参加し各ブースごとに特色ある「元気」を発信しました。約900人の来場者があり終日賑わいました。ユニセフコーナーでは「世界手洗いの日ダンス」を子どもたちと一緒に元気よくおどり、また使用済み切手を整理してビタミンAを世界の子どもたちに届けようと、子どもたちや、保護者、学生さん達が切手切りに参加してくださり約1.1kgを処理できました。



これは、例えば、十分な食糧を得ることが出来ずにビタミン欠乏症になるのを防ぐ為の一年分のビタミンA約330人分に相当します。ユニセフを支援して下さい皆様ありがとうございました。

募金贈呈式

11月24日(火) 小城市立三日月小学校

- ◆三日月小学校では、毎年ユニセフ募金にご協力いただいています。募金活動に取り組んだボランティア委員会のみなさんより、13,129円の募金の贈呈が行われました。
- ◆募金贈呈の後、「ユニセフとユニセフの仕事」についての説明をして、児童のみなさんのご協力がどのようにいかされるかを、いくつかの例をあげてお話ししました。



募金贈呈にあたって

- ◆私たちは、「貧しい地域に住んでいる多くの子どもたちの命を助けるお手伝いがしたい。」という気持ちで、ユニセフ募金の協力を呼びかけました。ユニセフさんからもらったプリントを読んで、たくさんの募金を集めたいと放送で呼びかけたりポスターを描いたりしました。このお金で子どもたちの命を助けてください。

ユニセフグッズ頒布

11月22日(日) 日本バプテスト連盟佐賀キリスト協会(佐賀市)

- ◆日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会で、「収穫感謝礼拝」の後にユニセフグッズの頒布をしました。礼拝においでになった皆様は、毎年、ユニセフのクリスマスカード・ギフトを楽しみにしてくださっています。



ユニセフ出前授業

～子どもの栄養と未来～

11月17日(火) 柳川市立矢ヶ部小学校

- ◆矢ヶ部小学校(児童数128名)では11月を「ユニセフ月間」としてユニセフ学習をしたり、募金活動に取り組んだりしています。
- ◆今年は「子どもの栄養と未来」をテーマに学習しました。必要な栄養がたりないために病気になりやすく、毎日多くの子どもがいのちを落としていることや、子どもを守るためのユニセフの支援についてお話ししました。また、上学年の皆さんは、気候変動と食糧生産についても考えました。この学習のあと、6年生を中心に校内でユニセフ募金活動に取組みます。

学習を終えて

- ◆ぼくは、日本がほかの国にくらべてこんなにたくさんの食べ物があるって知らなかった。食べ物がない国がたくさんあるので、食べ残しをしないようにしようと思った。
- ◆必要な栄養がたりなくて毎日多くの子どもがなくなっているのでおどろいた。少しのお金でも子どものいのちが助かるのでユニセフ募金をがんばりたい。



1年～3年



4～6年



パネル展&ユニセフグッズ頒布

11月14日(土)

「日韓交流演奏会～ラ・エスペランサ第28回定期演奏会」会場にて(佐賀市民会館)

- ◆韓国の「李如石ギターオーケストラ」の皆さまと「佐賀市民ギター合奏団」「佐賀ギターアンサンブル ラ・エスペランサ」の皆さまによる日韓交流演奏会が開催されました。会場は多くのギターファンで満席となり立ち見が出るほどで、日韓友好のギターのハーモニーを楽しめました。
- ◆主催の佐賀ギター音楽院院長、関谷静司先生からユニセフ佐賀県支部のご紹介があり、多くの皆さまにパネルをご覧いただきました。会場でご協力いただいたユニセフ募金は11,638円、グッズのご協力は19,110円でした。ありがとうございました。



募金贈呈式

11月10日(火) 鳥栖市立基里中学校

- ◆鳥栖市立基里中学校では4月からユニセフ募金活動に取り組みました。校内で募金協力を呼びかけたりプルタブを集めて換金したり、また、基里小学校の皆さんにも協力を呼びかけたりしました。文化発表会ではユニセフについて調べたことを発表しました。このようにして集められた11,394円のユニセフ募金を、全校集会で生徒会長より佐賀県支部に託されました。
- ◆募金贈呈の後、ユニセフ募金が世界の子どもたちのもとへどのようにして届けられるか、どのような事業に役立てられているかをお話しました。



募金活動

10月25日(日) 佐賀市 アバンセ「どん3の森朝市」会場

各地から運ばれてきた海の幸・山の幸・野の幸を求める人々で賑わうアバンセ「どん3の森朝市」会場で、フィリピン台風・サモア・スマトラ沖地震緊急募金活動をしました。お買い物の皆さまから18,752円のご協力をいただきました。ありがとうございました。



ユニセフ出前授業&募金贈呈式

10月24日(土) 柳川市立大和公民館

◆柳川市立大和公民館青少年ボランティア「なんでんお助け隊」の皆さんは、限りある資源「水」について考えました。「Before & After: 2枚の絵」のワークショップでは、井戸ができる前の絵と井戸ができからの絵を見比べて、村の生活がどのように変わったかを話し合いました。ユニセフは、「水とトイレ」のプロジェクトで安全な水を供給するための井戸の建設や衛生的なトイレの普及に努めていることをお話しました。



◆その後で、募金の贈呈がありました。「なんでんお助け隊」の皆さんは、9月27日市民体育館で開催された「柳川市リサイクルマーケット」に出店しました。手作りのマスコットやコースター、かわいらしい髪どめ、ミサंगा、マフラー、更には家庭から持ち寄ったバッグやタオル、食器などの日用品を販売しました。リサイクルマーケットの収益金9,788円をユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金にと託されました。

学習を終えて

- ◆村にたった一つの井戸ができただけで村の暮らしが大きく変わって、人々が笑顔になって元気になっている。井戸がどんなに大切かよく分かりました。
- ◆私は大きくなったら、このような暮らしをしている人々のために働きたいという思いを持っています。その思いを実現したいです。



世界手洗いの日

10月15日(木)



佐賀市城東保育園:ムッピー「みんな手洗い上手だね。」



ゆめタウン佐賀

- ◆「世界手洗いの日」は、世界の子どもたちに、正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフや世界銀行、水と衛生に関する関係機関や大学、企業など13の組織から成る「せっけんを使った手洗いのための官民パートナーシップ」によって定められた日です。

2008年は、国連が定めた国際衛生年であり、衛生に関する啓発活動が積極的に行われました。これをきっかけとして、2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」となりました。世界各地で、せっけんを使った正しい手洗いを普及、促進するための活動が、様々な形で実施されています。

- ◆佐賀県でも、ユニセフの「世界手洗いの日」プロジェクトに合わせて、新型インフルエンザの予防啓発活動に取り組まれています。15日には佐賀県危機管理広報課が、県内16市町40施設の幼稚園・保育園と連携して、子どもたちに正しい手洗いの大切さを伝えました。佐賀市の保育園ではクイズで、唐津市や鳥栖市の保育園では手洗いダンスで正しい手洗いの仕方を勉強しました。
- ◆18日には、県内5つの保健福祉事務所ごとに各地区のショッピングモールなどで、県民の皆さまに「新型インフルエンザの予防は、手洗い・うがい・せきエチケット」と『10/15世界手洗いの日』のロゴの入ったティッシュを配って呼びかけました。

ユニセフパネル展

10月10日(土)11日(日) 佐賀大学医学部『むつごろう祭』にて

- ◆毎年、実行委員・学術の皆様へ受け継いでいただき開催していただいています。今年は「水の大切さ」についてのパネル展、ビデオ上映、その他ユニセフグッズの頒布、募金活動に取り組まれました。



募金贈呈式

9月30日(水) 事務所にて



- ◆佐賀清和中学校では9月8日～9月10日に清和祭が行われ、そのなか9月9日にはユニセフ実行委員会の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーを開催しました。
- ◆本日はユニセフ実行委員会の岩崎さん、徳永さん、寺田さん、北村さんが担当の西田先生と一緒に、保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいた募金52,093円を届けてくださいました。

【活動を終えて】

- ◆僕は今回の活動を通して世界の子どもたちの現状を知り、とてもショックを受けました。僕が学校に行って勉強をしているこの瞬間にも世界では子どもたちが苦しんでいるなんて、この平和な日本からはとても想像できませんでした。少しでも手助けになればと思い、清和祭では一生懸命ユニセフ協力を呼びかけました。とても大変な仕事でしたが、1円でも子どもたちが救われるんだと思うとやりがいを感じました。また、来年もユニセフの活動に参加しようと思います。(実行委員長:岩崎)
- ◆中学1年から参加したユニセフの活動は今年で3年目です。今年はユニセフ活動を実行するための実行委員になり、副委員長として委員長と協力して学校全体への取り組みを行いました。募金活動やバザー活動を行うのは思った以上に大変でした。でも、自分の活動で世界の子どもたちが沢山救われると思うと、一生懸命活動することができました。これからは、身近なことでも役に立てるよう頑張りたいと思います。(副委員長:徳永)

ユニセフのつどい

日本ユニセフ協会佐賀友の会設立15周年
日本ユニセフ協会佐賀県支部設立5周年記念事業
「100人でする100人村 in 佐賀」

期 日：2009年9月26日(土)

会 場：佐賀大学文化教育学部附属小学校体育館

ファシリテーター：桜井高志さん(桜井・法貴グローバル研究所代表)

共 催：日本ユニセフ協会佐賀県支部 JICA九州佐賀デスク 佐賀市国際交流協会 佐賀新聞社

後 援：佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 佐賀県小中学校校長会 佐賀県高等学校校長協会 佐賀県PTA連合会 NHK佐賀放送局 サガテレビ ボーイスカウト佐賀県連盟 ガールスカウト佐賀県支部 コープさが生活協同組合 佐賀県青年海外協力協会

協 力：佐賀大学文化教育学部附属小学校

- ◆「100人でする100人村in佐賀」には、千葉県・愛媛県・鹿児島県・宮崎県・大分県・福岡県など県外からの参加もあり、116人の入村者がいました。村人は、小さな子どもから高齢者まで、まさに「村の住人」そっくりそのままの年代構成でした。他にギャラリーとしての参観者もあり、広い体育館は熱気に包まれました。
- ◆週末にもかかわらず100人村においでくださった多くの皆さま、イベント開催にあたってご後援、ご協力いただいた各団体の皆さま、そして、イベントを支えてくださった多くのボランティアの皆さま、大変ありがとうございました。



世界には、63億人の人がいますが、もしも、それを・・・100人の村に縮めるとどうなるでしょう？



中尾会長の挨拶



100人村ツアーガイドのさくちゃん

計算ゲーム



技術の有無



筆算で頑張っています



電卓を使っています



新型インフルエンザ予防のため
入村前によく消毒をして...



大陸別人口：人口爆発



喉がかわいた。水はどれ？：識字

【アンケートより】（今日気付いたことや、発見したこと、思ったこと）

公平と不公平の意味がわかってよかった。（小学生）

世界の現状がよくわかった。世界の何人もの子どもたちが栄養不足によって亡くなっていて、とてもかわいそうだった。（10代）

実際に会場内で見える形で世界の格差を感じることができてよかった。（20代）

参加型の勉強ができてとても楽しかった。友達とかにも今日知ったことを教えてあげたくなった。（20代）

世界の現状など知っているつもりでいたが、今日のお話を聞いてまだまだ甘かったと思った。今、自分にできることを少しずつ実行していけたらと思う。学校の子ども達にも伝えたい。（20代）

アフリカ(エチオピア)の村人を経験し、ソマリア沖で海賊をする気持ちがなんとなくわかった。富める国から富をもらってもいいじゃないか...という気持ちが湧いてきた。（30代）

100人ってどんな100人が集まるんだろうと思ってきてみたが、小さい子どもから高齢の方まで、老若男女いろいろな方が来られていて、本当に100人村の感じで面白かった。桜井さんのガイドは本当に楽しくあつという間の3時間だった。今日の気づきを日々の生活の中でも考えていきたいと思う。（30代）

子ども(3歳・1歳)にとってはちょっぴり長かったようだが、大人にとっては短く感じた。日本人としてできること、大人として子どもたちのために考えなければならないことを短い時間だったが考える機会になった。

子ども(小5)が学校でちょうど100人の村について考える授業を受けて興味を持っていたので、参加してみた。インドネシア人の身になって考えることができ、不公平さと自分の毎日の生活がいかに豊かなかを痛感した。無駄をなくして少しでも世界のことに役に立てる生活に切り替えたいと思った。（40代）

今日の桜井先生の案内で、地球の今の現状をわかりやすく教えていただき、考えなければならないことがたくさんあることを改めて感じた。私は生徒会を担当しているが、子ども達と一緒に、少しでもこれからの私たちにできることを実行していきたいと思う。（40代）

現世に地球上にあまりにも貧富の差がありすぎ、互いの助け合い精神が必要である。かつて日本も貧国の時代があったと思う時に、人ごととは思われない。（60代）

ユニセフパネル展&グッズの頒布

さが国際ふれあいフェスタ '09 ~手をつなごう! 世界と佐賀と~

9月13日(日) アバンセにおいて

- ◆さが国際ふれあいフェスタ'09会場においてユニセフのパネル展「ユニセフの願い」とグッズの頒布を行いました。約2,500名の来場者があり、ユニセフのブースにいらっしゃった方や他団体の方々との交流ができました。ユニセフの活動の様子をパネルでご紹介したり、グッズ代金の約50%が活動資金となることをお伝えしたりして、皆様からグッズ等へのご協力をいただきました。



ユニセフ「紛争下の子どもたち」展

8月6日(木)~8月9日(日) 佐賀市平和展において

- ◆佐賀市平和展は、平成4年から開催され今年で18回目を迎え今年も佐賀市立図書館で8月6日から9日までの4日間開催されました。
- ◆豊田直巳写真展「パレスチナの子供たち」、水木しげる戦争展、「STOP」核ナガサキ原爆の傷跡、戦時中の遺留品展示、戦時中の食体験「すいとん」の試食会等が催されました。
- ◆ユニセフコーナーでは、「地雷ってどんなもの?」と題してユニセフの願いパネル、地雷レプリカによるユニセフの活動、地雷廃絶と平和の尊さについて4日間で約350名の来場者の方に説明を行いました。



参加者の声(アンケートより)

- ◆同じ子どもでもぼくたちと違って命をかけて紛争にでていることが分かった。
- ◆日本は平和だけど、他の国ではじらいとか埋めてあって、その被害で足がなくなったり、死んでしまったりしてかわいそうだなと思いました。自分は幸せで楽しい生活をしているけど、愛されてないで戦争にもいかにされて、自分がどれだけ幸せなのかが感じられました
- ◆8月6日、今日は私の誕生日です。子どもの時からこの日に生まれた意義はすごいと平和への使命を感じて育ってきました。子どものいのちと人権を守るためにユニセフの活動はとっても大切だと思っています。一人でも多くの人々が意識変革をし足元から平和が築かれていきます様に。

ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

7月22日(水) アバンセ(佐賀市)

- ◆佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2009 ～子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って～』が、180人の参加者のもとで開催されました。午前中は、アバンセのふれあい広場で日食観測の後、平和行進が行われました。午後はアバンセホールで「平和のつどい」が開かれ、講演会と平和ミニコンサートがありました。
- ◆ホールホワイエでは、ユニセフのパネル展・ユニセフグッズの頒布をしました。参加者の皆さまからのグッズ頒布ご協力は3,930円、ユニセフ募金は3,201円でした。ありがとうございました



地雷の説明を
熱心に聞く子ども

ユニセフ出前授業

7月3日(金) 佐賀市立嘉瀬小学校(1年～6年)

「へいわについて かんがえよう」

- ◆嘉瀬小学校(児童数240名)では平和集会が開かれ、全校の皆さんが「おりづる」の歌を歌ったり、校長先生のお話を聞いたりしました。その後、ユニセフの資料を通して平和について考えました。
- ◆子どもたちに「平和ってどんなこと？」と問いかけ、現在の私たちの日常の暮らしそのものが平和あつてのことだと気づいてもらいました。さらに、現在、世界の各地の紛争下で暮らす子どもたちの現状をお話し、命の尊さ、平和の大切さについて考えました。



学習を終えて

- ◆今も戦争があっているなんて知らなかった。子どもたちが兵士にされるのがびっくりした。
- ◆日本ではふつうに暮らすのはふつうのことなのに、他の国ではふつうの生活ができない子どもたちがたくさんいるんだなあ。
- ◆日本は戦争がないからすごくいいところだと思う。これからも友だちとなかよくしないといけないと思う。
- ◆戦争が終わっても、地雷や不発弾で手足を失う子どもがいるなんておそろしいことです。

募金贈呈式



7月1日(水) 佐賀市立赤松小学校にて

- ◆赤松小学校ボランティア委員会の6年生が中心となってユニセフ募金活動に取り組みました。その結果、20226円もの募金が集まりました。
- ◆募金贈呈の後、『ビタミンAカプセル』、栄養不良の改善に役立つ『プランピー・ナッツ』、『ORS(経口補水塩)』を实际手にして説明を聞きました。

ユニセフ出前授業

7月1日(水) 雲仙市立吾妻中学校(1年～3年)
「平和について考える」



- ◆吾妻中学校(生徒数216名)では、ユニセフを通して平和学習が行われました。吾妻中学校では、事前にパネル「紛争下の子どもの人権」やビデオ「小さな涙～サラエボの子どもたち～」 「子どもと武力紛争」などを視聴して学習しました。
- ◆体育館の屋根を打つ激しい雨音にもかかわらず、生徒の皆さんは、「平和とはどういうことか」「現在の紛争のなかに生きる子どもたちの様子」、DVD「みんなの笑顔をもた見せて～イラク～」などを通して、真剣な態度で命の大切さや平和について考えました。

学習を終えて

- ◆今、この瞬間でも紛争などの争いがあることが分かりました。しかも60年たっても解決されていない問題もあるということも分かりました。私たちは平和な生活ができるこの一瞬一瞬を大事にしようと思います。そして、平和を願うだけでなく、行動や言動で示していきたいと思います。
- ◆話を聞いてショックなことがたくさんありました。話を聞きながら「私にできることは何だろう」と一生懸命に考えました。私は、平和実行委員という役員です。だから一人でも多くの子どもが助かるようにユニセフの活動に力を入れたいと思いました。
- ◆私は親によく我がまを言います。でも、今日のお話を聞いて少しショックを受けました。「こんなにも生きるのに困っている人がいるのに、自分は一体何をしているんだろう。」そんなことを思いました。